

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らしっく		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 4 月 1 日		～ 令和 7 年 3 月 14 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14世帯	(回答者数) 8世帯
○従業者評価実施期間	令和 6 年 4 月 1 日		～ 令和 7 年 3 月 14 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 10 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験や体験活動。	月に一度プログラムとして子ども会議を開催し、次の月の活動等について話し合える機会を作っている。意思表示が難しい児童に対しては質問の仕方、聞き方を工夫したり、できる限り意見の一つとして吸い上げられるように意識している。	実際に子どもたちの意見が反映されることによって、社会との繋がりを感じたり、自己肯定感の向上、自信に繋がるきっかけとなるため、今後も行っていきたい。
2	卒業後の関わり。	作品展などの開催時に卒業生、その保護者にも声をかけ、関われる機会を作っている。	そのような場を増やしていくことで、社会とのつながり、コミュニティとして機能していくことのできるように継続して行っていきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	平日のプログラム。	平日のプログラムは、見通しをもたせる観点からある程度固定化しているが、こどもの利用日が固定されているご家庭においては同じプログラムになってしまい、デメリットにもなっている。	平日のプログラムについても少し変化をもたせながらマンネリ化しないことが必要。チームで話し合う場を設け、子どもたちに有益な活動を提供できるようにする。
2	現在、自立している子どもたちがメインのため、支援の幅が固定化している。	現状に慣れているところもあって、色々な特性、場を想定した支援の検討を考えていく必要はある。	定期的な勉強会、研修などを行いながら職員の質の向上、意識の向上を常日頃から行っていくようにする。多角的な視点を身につけられるようにしたい。
3	地域との交流機会。	地域に開かれた事業所は目指しているが、多種多様な子どもたちがいる中で、状況に臨機応変に対応できる児童もいれば変化が苦手な児童もいるため、難しいところではあると感じる。	まずはゴミ拾いなど地域に貢献できるようなプログラムを設定していくようにする。